

宇宙開発戦略専門調査会
第13回会合
説明資料

平成23年4月25日
内閣情報調査室
内閣衛星情報センター

情報収集衛星について

目的

外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、情報収集衛星を導入する(平成10年12月22日 閣議決定)

➡ 国民生活の安定・安全を確保するための情報の収集・分析に重要なツール

構成

○光学衛星2機、レーダ衛星2機の計4機体制で、地球上の特定地点を、光学衛星、レーダ衛星各々1日1回以上撮像することを当面の目標とする。

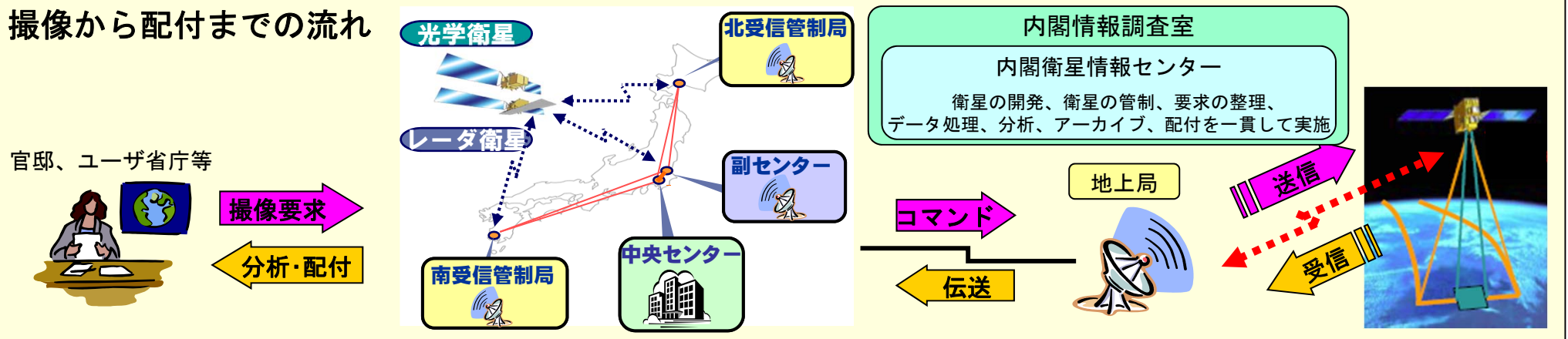
情報収集衛星の概要

数百km先にある約1m間隔の物体を識別、数km/秒の高速移動中に多地点を撮像等、最先端の性能を実現。

○光学衛星：地表からの光を検出し、一般の写真に似た画像を取得。夜間や悪天候時には撮像不可。

○レーダ衛星：電磁波を放射し、反射波を捕捉して画像を取得。夜間や悪天候時の撮像も可能。

撮像から配付までの流れ

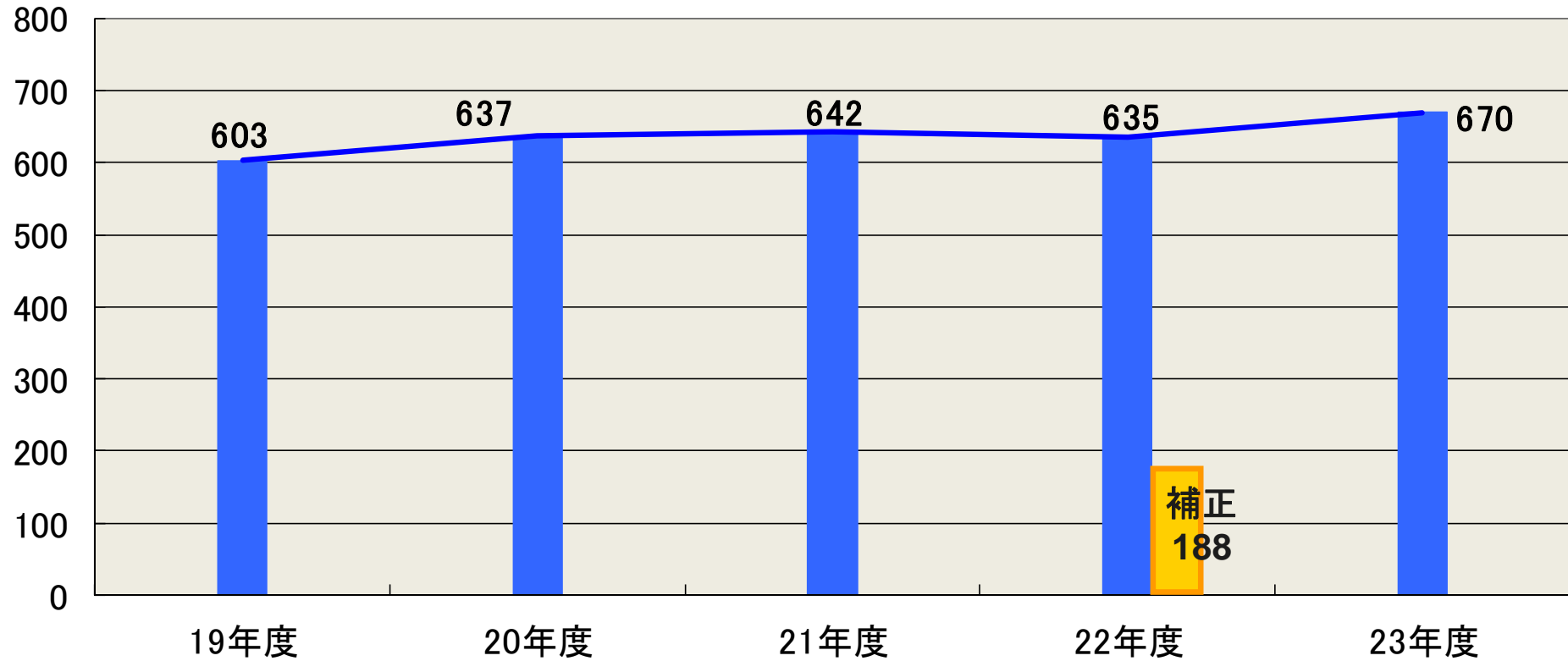


基本的な考え方

安全保障及び危機管理のための政府全体の重要な情報収集ツールであることを踏まえ、この目的を達成すべく最大限有効に活用するとともに、**厳格な情報保全**を行うことが必要。

情報収集衛星予算の推移(最近5年間)

(単位:億円)



情報収集衛星

0. 担当部署：（内閣情報調査室内閣衛星情報センター）

事業開始年度：平成10年度

1. 事業目的（何のための事業か？）

外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、情報収集衛星の開発・運用等を行う。

2. 事業概要（誰・何を対象に、どのような方法で、誰がやっているのか？）

内閣衛星情報センターは、内閣の情報機関である内閣情報調査室に属し、内閣情報会議（議長は内閣官房長官、委員は各省次官級、我が国のインテリジェンスに係る基本方針等を総合的に検討。）等に従って、情報収集衛星の計画的な開発・打上げ及び運用を行っている。

具体的には、各省からの要望を踏まえ計画的な衛星開発・打上げを行うとともに、官邸及び各省からの情報要求等を受けて、情報収集衛星を運用し、地球上の特定地点を撮像すること等によって得られた画像情報やその分析結果を官邸及び各省に配布している。

3. 事業期間・総事業費（事業開始から事業終了（見込み）まで）

年度	10～17	18	19	20	21	22	23	合計
予算	4438	614	603	637	642	823	670	8427

※当初予算及び補正予算（修正減少額は加味せず）を記入。

4. どのような計画や目標をたててやっているのか？その計画や目標の達成度は？

地球上の特定地点を1日1回以上撮像できるよう、光学衛星2機・レーダ衛星2機から構成される4機体制を早期に構築し、この体制を安定的かつ継続的に維持するとともに、長期的には、情報の質・量・即時性の向上等により、情報収集衛星の機能の拡充・強化を図る。

5. 成果及び事業評価（成果指標、その評価体制と実際の評価、評価の結果見直しをしたことがあればその内容）

情報収集衛星で得られた情報やその分析結果は、官邸及び利用省庁に配布して有効に活用されている。

加えて、大規模災害時等においては、内閣情報調査室において、現地の被災状況を推定した地図を作成しており、広く活用されるよう各省に配布している。

6、関係省庁との協力体制

内閣情報会議及びこの下に設置された情報収集衛星推進委員会、情報収集衛星運営委員会（ともに議長は内閣官房副長官、関係各省が参加）において、情報収集衛星の開発・打上げ及び運用の基本方針を検討・策定している。

当該方針を踏まえ、官邸及び各省からの情報要求等を受けて、情報収集衛星を運用し、得られた画像情報やその分析結果を官邸及び各省に配布している。

7、主な委託先とその分担

情報収集衛星の開発については(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)や(独)情報通信研究機構(NICT)等に委託している。